

フィンランド語文法：入門⑦ タイプ1の動詞（現在形）

『フィンランド語との対話—吉田欣吾』

<https://yoshidakingo.com/>



動詞のもとの形

●動詞のもとの形

辞書の見出し語となっている動詞のもとの形はA不定詞、あるいは第1不定詞と呼ばれる（しばしば「不定詞」と呼ぶ）。

●不定詞は必ず a か ä で終わる（「母音調和」）。

puhu**a** 「話す」、kysy**ä** 「尋ねる」



動詞のタイプ

- フィンランド語には動詞のタイプが6つある。
- タイプの違いは、不定詞の最後の a / ä の前にどのような音があるかの違いによる。
- 動詞を現在形にするときは、まず不定詞から「**語幹**」と呼ぶ形を作る。この語幹の作り方がタイプにより異なるが、その他の点では原則としてタイプによる違いはない。



タイプ₁の動詞の「語幹」

- タイプ₁の動詞の場合には、不定詞の最後の a / ä の前に必ず母音がある。

puua 「話す」、sanoa 「言う」

kysyä 「尋ねる」、elää 「生きる」

- この不定詞からまず「語幹」を作るが、タイプ₁では最後の a / ä を取り去れば「語幹」になる。



練習（1）

- 次の動詞はすべてタイプ₁の動詞である。「語幹」を作ってみる。

puhua 「話す」、sanoa 「言う」、asua 「住む」

laulaa 「歌う」、rakastaa 「愛する」

istua 「座る」、seisoa 「立つ」、kysyä 「尋ねる」

metsästää 「狩りをする」、pystyä 「できる」



練習（１） 一答え

- 次の動詞はすべてタイプ₁の動詞である。「語幹」を作ってみる。

puhua > **puhu-**、 sanoa > **sano-**、 asua > **asu-**
laulaa > **laula-**、 rakastaa > **rakasta-**
istua > **istu-**、 seisoa > **seiso-**、 kysyä > **kysy-**
metsästää > **metsästä-**、 pystyä > **pysty-**



語幹十人称語尾

- 語幹さえできれば、あとは主語に合わせて「**人称語尾**」をつければ終わり。たとえば、puhua「話す」の語幹は puhu-、その puhu- に「私」を表す語尾である -n をつけ puhun とすれば「私が話す」という形になる。



いくつかの例（人称語尾をつきとめる）

	puhua 「話す」	laulaa 「歌う」	kysyä 「尋ねる」
語幹	puhu-	laula-	kysy-
minä	puhun	laulan	kysyn
sinä	puhut	laulat	kysyt
hän	puhuu	laulaa	kysyy
me	puhumme	laulamme	kysymme
te	puhutte	laulatte	kysytte
he	puhuvat	laulavat	kysyvät



人称語尾（1）

● 人称語尾は原則として、どの動詞でも同じ。

① 「私」は **-n**

② 「あなた」は **-t**

③ 「私たち」は **-mme**

④ 「あなたたち」は **-tte**

⑤ 「彼ら」は **-vat** か **-vät**

（**-vat** と **-vät** があるのは「母音調和」のせい）



人称語尾 (2)

- hän 「彼/彼女」が主語のときの人称語尾は何か。

puhuu

laulaa

kysyy

- 主語が hän の場合の語尾は

「母音を伸ばす」

したがって、hän の場合だけ人称語尾の形は単語によって異なる可能性がある。



練習 (2)

● 次の動詞を6つの形に変化させてみる。

sanoa 「言う」、asua 「住む」

metsästää 「狩りをする」、pystyä 「できる」



練習 (2) 一答え

	sanoa	asua	metsästää	pystyä
語幹	sano-	asu-	metsästä-	pysty-
minä	sanon	asun	mestästän	pystyn
sinä	sanot	asut	metsästät	pystyt
hän	sanoo	asuu	metsästää	pystyy
me	sanomme	asumme	metsästäämme	pystymme
te	sanotte	asutte	metsästätte	pystytte
he	sanovat	asuvat	metsästävät	pystyvät

